

古墳

～横穴式石室の研究～



桐生市立中央中学校

一年 松倉 孔

①調べようと思ったき、かけ

父が古墳マニアなこともあり、よく一
緒に群馬県の古墳を見に行っていました。
その中で気がついたのは、古墳には豎穴
式と横穴式石室があるということです。
太田市にある天神山古墳は、東日本最大
の大きさをほこります。外から見ると
森や丘に見え、少し物足りない気がしま
した。一方、横穴式石室のある古墳は、
実際に石室の入り口を見られるので、歴
史を感じる事ができました。
僕は、この石室が機械の無い時代に、
石室がどのように作られたのか、調べて
みようと思いました。



太田天神山古墳
(太田市内ヶ島町)

・墳丘の全長210m

大きすぎて、た
だの森のように
見え、一見古墳
とは思えない。

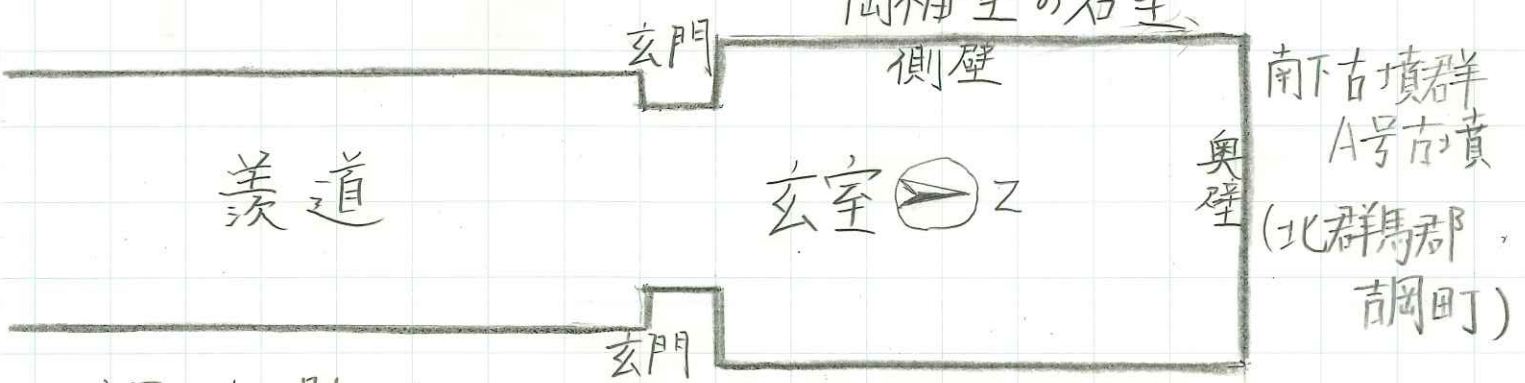
②横穴式石室とは

6世紀になると安中市の築瀬二子塚古墳や前橋市の前二子古墳などなまじりな埋葬する。その穴式石室は古墳の頂上に遺体を埋葬する。朝鮮半島から横穴式石室が伝わり、日本でも作られるようになりました。

構造は、石材を積み上げた部屋の壁に外部との出入口を設け、棺を安置する玄室（げんしつ）と通路にあたる羨道（せんどう）とから成ります。

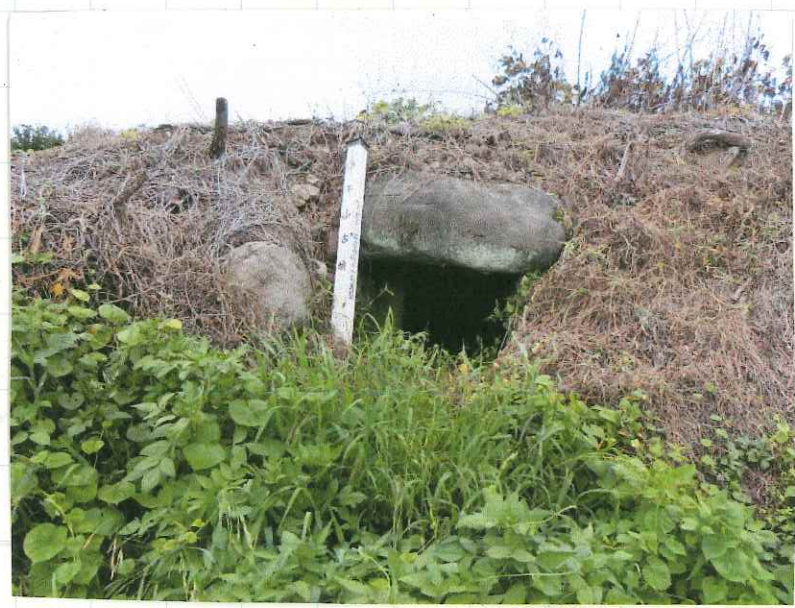
玄室と羨道との接続部分は袖部と呼ばれています。構造は大きく分けて3種類の形式があり、羨道部から見て玄室の袖部が左右に広がっているものが「両袖型」、右か左どちらか一方へ広がっているものが「片袖型」、羨道と玄室の幅が同じで連続しているものが「無袖型」と呼ばれています。

両袖型の石室



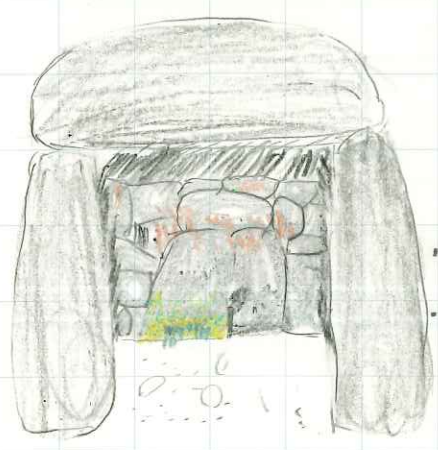
③横穴式石室の又リット

豎穴式石室では古墳の築造と共に埋葬
 や葬送儀礼を行ったことに対し、横穴式
 石室では古墳の築造後に石室への通路を
 作り、墓道や羨道を使って棺の搬入や死
 者の埋葬が行われました。つまり、古墳
 を作ったあと、ゆっくりと葬送儀礼が下
 きたのです。これにより追葬や合葬など
 数次にわたる埋葬が可能になり、豪族の
 長とその家族など複数の人物が同じ石室
 に埋葬できるようになりました。



源平山古墳
 (北群馬郡
 吉岡町)
 ・後から自由に
 出入りができ
 るので、その
 つど古墳を作
 る必要がな
 かった
 と思う。

・思ったより中
 が小さく、下
 へ埋葬するの
 だろうか?



入口から見た
 中の様子
 ・中はそんなに広くない。
 ・いろんな形の石を
 上手にすき間なく
 積み上げている。

④どんな石を使ったか

横穴式石室では大きな石から小さな石までいろいろな形や大きさの石がきれいに並べられて作られています。群馬県の古墳の石室の石は主に火山岩や川原石を使用しています。榛名山や赤城山など大昔に噴火した山があり、川も流れている群馬県は、石室を作るための豊富な資源がありました。火山岩や堆積岩は、やわらかい性質をもち、加工するのに便利だったと考えられています。

観音山古墳（高崎市綿貫町）

- ・ 羨道入口寄りの半分が川原石。
- ・ その他は全て榛名山三ツ岳噴出の角閃石安山岩の削石。
- ・ 天井石には巨大な牛伏砂岩。

西山古墳・北山古墳

（太田市やぶ塚町）

- ・ 凝灰岩の割石。

宝塔山古墳（前橋市）

蛇穴山古墳（総社町）

- ・ 輝石安山岩の切石
- ・ 角閃石安山岩の切石



宝塔山古墳で使われている輝石安山岩

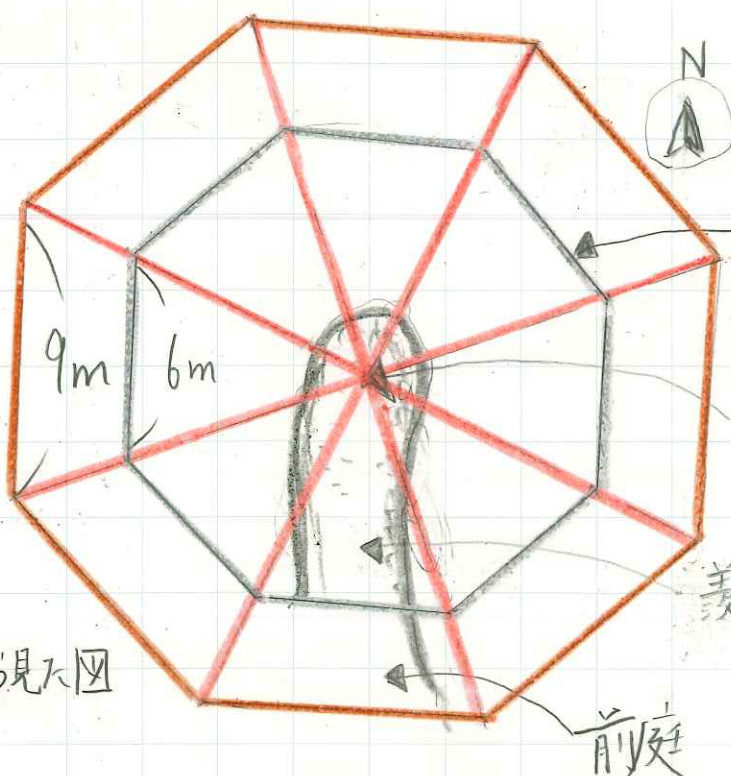
⑤ 僕のオスス又古墳BEST3

(1) 三津屋古墳 (北群馬郡吉岡町) ^{7世紀後半} 飛鳥時代

この古墳のすごいところは、八角形墳で、関東で全角135度の正八角形を示す唯一の古墳と確認されたことです。しかも、八角形墳は奈良県下天皇か皇子の墓と限定されているから、もしかしたら天皇一族が埋葬されていたのかもしれない。石室内部は、版築と呼ばれる技法で盛土した土層断面が残されている。住宅街にポツ



ンとあるのも面白い。



上から見た図

上の写真のように小さな石がいくつも積み上げられて、八角形を作っている。

吉岡町文化財センター
三津屋古墳紹介動画あり

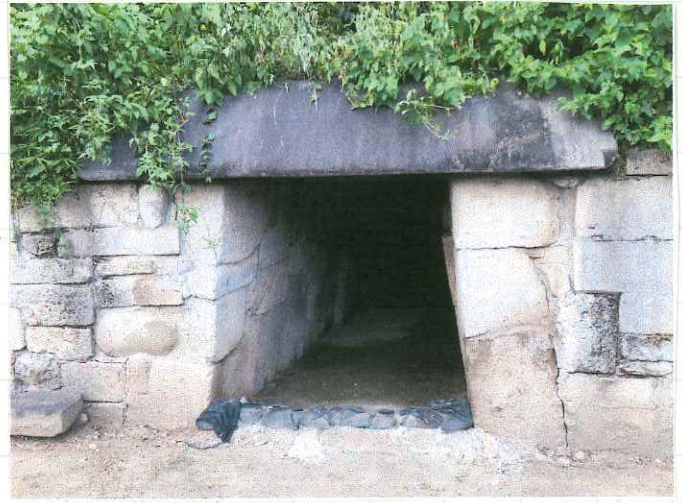
(2) 宝塔山古墳 (前橋市総社町) 7世紀後半
飛鳥時代

この古墳のすごいところは、中まで入れて、玄室の石棺を真近に見られるところですよ。

また、石室内部の高度な石材加工技術もすごいです。きれいに加工された切石を巧みに積み上げる「截石切組積」という手法が使われています。紙1枚入らないほど精巧に作られています。

さらに玄室の壁面には漆喰を厚くぬって石室全体を白く平らに仕上げています。

石材の精密な加工と、積み上げ技術、漆喰の使用などは、仏教文化の影響とされ、壁面には絵が描かれていた説もあります。



入り口



羨道



玄室と家形石棺

(3) 西山古墳 (太田市やぶ塚町)

6世紀後半
古墳時代

この古墳のす
ごいところは、
小高い丘の上に
ある前方後円墳
ですが、横穴式
石室があるところ
です。



前方部を東に
向け、南に横穴式
石室の入口が

石室の入口

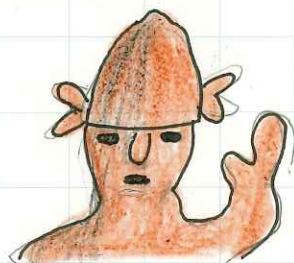
あります。石室の大部分は火山灰が固ま
ってできた凝灰岩の割石を使用していま
す。

石室の羨道は崩落の危険があるため、
コンクリートで補強されています。写真
の入口天井部の石も新たに付けかえられ
たものです。



昭和37年の群馬
大学調査に
より、円筒埴輪
の列が裾にまわ
されていたこと
がわかりました。

⑥考察



- 。横穴式石室の古墳は、それまでの竪穴式とは違い、後から追加して埋葬された家族葬も可能なので、労力や資源の面から見ても、いいと思った。
- 。石室によっては、1枚の巨石を使ったり天井を作ったり、石を加工して、まるでレゴのように上手に積み重ねて作ったりしている。表面を磨いたり、角面を削って組み合わせたたり、玄室の壁面には漆喰が塗られているなど、当時の技術はとて高いものであることがわかる。
- 。使われた石の多くは、火山岩や川原石なので、群馬県で古墳文化が発達した理由として、豪族の存在や朝鮮から技術が伝わったこと、他に、豊富な資源が群馬県にあったことだと思ふ。

⑦感想

群馬県のいろいろな古墳について知る事ができてよかった。なかでも三津屋古墳は全国でも数少ない八角形墳ですごいと思った。他にも、太田天神山古墳はとて大きくて驚いた。今回、横穴式石

室について調べてみて、昔の人は工夫して石室を作っていることを知った。いろいろな形の石を積み上げてくずれないようになっているすごいと思った。群馬県は他にもいろいろな形、大きさの古墳があるので、昔の人の知恵や歴史を感じながら、いろいろなところに行ってみたい。

〈紹介した群馬県の古墳マップ〉



〈参考文献〉

- 東国文化副読本
- 群馬県ホームページ
- 前橋市ホームページ
- 吉岡町文化財センターホームページ
- 太田寺ホームページ